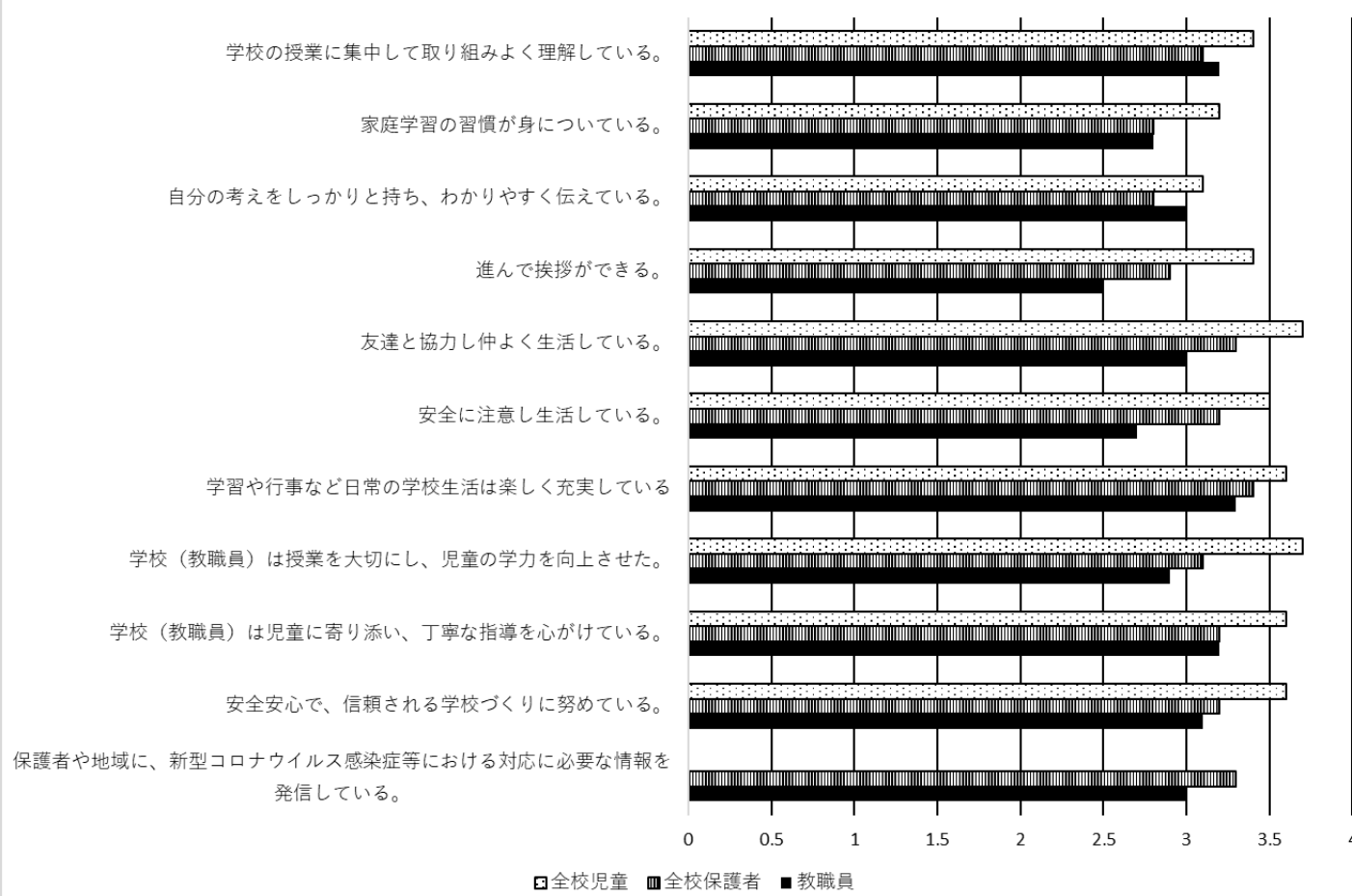


学校教育目標 心身ともにたくましく 志を持って 未来を拓く北部の子

過日実施しました「学校評価」の実施結果を集計しました。分析結果を真摯に受け止め、今後の学校運営に活かしてまいります。ご家庭でもぜひ参考にしてください。アンケートへのご協力ありがとうございました。

令和4年度 学校評価アンケート集計結果



各項目「4 とてもそう思う 3 そう思う 2 あまりそう思わない 1 まったく思わない」を集計し、平均値を表しました。また、項目「保護者や地域に、新型コロナウイルス感染症等における対応に必要な情報を発信している」は、児童には答えにくい項目であるため児童には質問していません。

【結果の考察】

- ・子どもたちの回答においては「友達と仲良くし、生活している」と「学校（教職員）は授業を大切にし、児童の学力を向上させた」の数値が最も高く、友達との関係や授業が充実したものとなっていることがわかります。
- ・保護者・教職員の回答においては「学習や行事など日常の学校生活は楽しく充実している」の数値が最も高く、子どもたちの日常の姿から学校生活が充実していると感じている保護者・教職員が多いことがわかります。

【課題及び今後の対応】

「自分の考えを持ち、わかりやすく伝える」

児童、保護者ともに「自分の考えをしっかりと持ち、わかりやすく伝えている」の数値が最も低くなっており、課題意識が強いことがわかります。コロナ禍によりグループでの話し合いや、表現活動が制限されていましたが、今後は児童が自分の考えを持ち、表現する機会や場面を十分に確保していきます。

「進んで挨拶ができる」

保護者と教職員の回答において「(子どもが) 進んで挨拶ができる」の数値が低く、課題であると感じている人が多いことがわかります。感染症拡大防止の影響で、以前に比べ元気よく挨拶を行える機会が少なくなり、教職員・保護者の回答の数値が低くなっていると考えます。あらためて、「挨拶の意義」「コミュニケーションをとる上での挨拶の大切さ」を指導し、児童自ら気持ちの良い挨拶や人との関わり方を身につけられるよう働きかけていきます。

「安全に注意し、生活している」

教職員の回答において「(児童は) 安全に注意し、生活している」の数値が最も低く、課題であると感じている割合が高いことがわかります。一方で、児童の回答は、教職員の回答よりも0.8ポイント高く、捉え方に大きな差が生じています。こうした状況を踏まえ、学校では、児童の安全意識が不足している場面について情報共有を行うとともに、KYT（危険予知トレーニング）などを充実させ、指導体制を整えていきます。また、交通安全教室についても発達段階に合っているか内容を再検討した上で実施し、登下校や校外での過ごし方についても安全意識を高めていけるように指導を行っていきます。

「家庭学習の習慣が身についている」

児童の回答では、家庭学習の習慣が十分に身につけていないと感じている児童が一定数いることがわかります。学年別に回答を分析すると、低学年から高学年へと学年が進むにつれて、家庭学習が習慣化されていない児童が増加する傾向にあります。これらの状況を踏まえ、学校としては、自主学習ノートの取り組みや、eライブラリーなどのタブレットを活用した学習などをより一層充実させ、児童が興味や関心をもって課題に取り組めるように課題の内容に工夫をしていきます。

「学力向上」について

児童は、学力が向上したと感じています。前述した「自分の考えを持ち、わかりやすく伝える」という思考・表現・判断に関連する項目は低めの自己評価となっていることから、知識・技能などに関連する学習内容が身についたと感じている児童が多いことが推察されます。これは、「計算すいすいタイム」、TT（ティームティーチング）指導、教科担任制など、個々に応じた丁寧な学習指導を行ってきたことが、基礎基本の定着につながっていると考えられます。さらに、毎年行われる全国学力・学習状況調査や千葉県の施策である学びのデザインシートなどの結果を分析し、研修や教材研究を通してより児童の学力向上につながるよう授業改善に努めていきます。

【その他、自由記述から】

- コロナ禍でも、子どもたちが楽しめるような取り組みが多く、とても感謝している。
- 交換授業でいろいろな先生の授業を受けられたことが良かった。
- 一人一人、丁寧な指導をしてくれたことに感謝している。
- △タブレットの活用方法について検討して、充実した学習活動にしてほしい。
- △行事に関するお知らせを早めにしてもらいたい。
- △PTA活動・役員の仕事を見直してもらいたい。